

疲れたらちょっとひと
息つきませんか



キャンパーでにぎわう 涸沼自然公園

大自然の中に囲まれて暮らしたい。人々はそんな願いをこめて生活しています。

時代に即応した社会とも言える開発ブームは、環境破壊にもつながっています。

自然を自然のままに、そんな願いをかなえて、くらしに潤いを与えてくれる「涸沼自然公園」の存在は大です。今年四月二十九日オープン。広いひろい、涸沼の湖面を一望できる展望広場、家族連れで子供もはしゃぐわいわい広場、立ち止まって深呼吸したい太陽の広場、胸踊るイトトンボ橋でのさわやかな風に満足するひととき。

散策路あり、山あいにはあじさいの谷、そして一休広場での心休める

時、水と緑と人々とのふれあいを快く感じます。

オートキャンプ場、テントサイドに隣接して、テニスコートがあります。ここではスポーツとしてだけでなく、若いカップルや親子とともに、知人、友人との出合いの場として交流のできるコートです。

キャンプ案内に目を向けてみましょう。

設営数 オートキャンプ 五十六区画 テント 最大七十張 キャンプ利用、バーベキュー利用共に必ず涸沼自然公園キャンプ場管理事務所にて受付を済ませて下さい、とのことです。利用期間は五月から十月となっています。

五月から六月下旬にかけて、町内の小学五、六年生は、模擬キャンプにより、野外学習体験があった、ということでした。

現在、公園利用は小学一、二年生、保育園、幼稚園児が多く、今後もレクリエーションを取り入れた野外学習活動は続くようです。

一般では土、日曜日の来園者が多く、町内はもとより、県内、県外からの申し込みも増えているそうです。季節の花が咲き、手を取りあった老夫婦の散策姿を、ほほえましく思いながら私は帰路につきました。

レポーター 岡山 亮子

社会問題の
運動を支援

社会を明るくする運動とは、法務省が中心になって、国民一人ひとりが犯罪や非行の防止をし、罪を犯したり非行に陥った人たちの更生に理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的運動で、七月一日から三十一日まで強調月間として展開された。

当町では、保護司会や更生保護婦人会の役員らが、法務大臣からのメッセージを町長に伝達したり、庁舎前に広報活動の一環として標語の

懸垂幕を提示したりし、犯罪や非行を誘発しない社会環境を整えていくための啓発活動等を行った。更に、住民の理解と参加を求めするためにミニ集会や対話集会も開催した。

社明運動は、今年で第四十五回を迎え、毎年運動に参加する人々は増えており大きな成果をあげている。



町長にメッセージを渡す保護司会の米川富秀さん（前方左）

サッカー大会

茨城FCが優勝

過日、町運動公園でサッカー大会が開催され、十九チームが熱戦を繰り広げた。優勝した茨城FCは、東茨城郡大会に出場し、準優勝した。結果は次のとおり。

▼優勝 茨城FC 準優勝 BOM S 三位 BFC、IFC

▼最優秀選手 井川秀明（茨城FC）

▼優秀選手 皆川直行（茨城FC）、

栗原伸一（BOMS）、吉川信寿

（IFC）、倉本裕之（BFC）

花火大会の
準備を促す



日時 8月20日午前9時30分

雨天の場合、芸能ショー・盆踊りは体育館で実施。花火は21日に順延。

場所 役場庁舎敷地内

内容 サンバ大会・芸能ショー・御輿・山車フェスティバル・盆踊り

大会・花火大会

問合せ先 商工観光課（内線127）